

D I
90
N8128-1

8107

水産研究所報告

昭和27年度

水産研究所要覽



内海區水産研究所
別冊

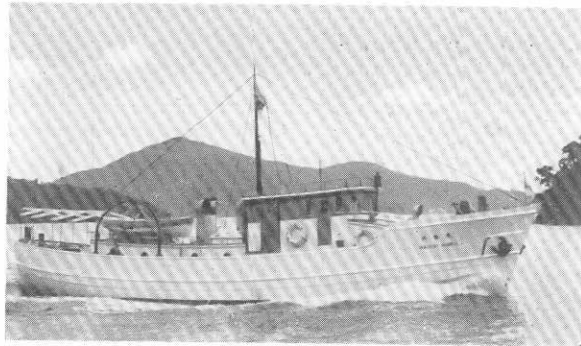
D I
90
N8107-1



内海区水産研究所



庁 舎



内 海 丸

内海區水産研究所

1. 名稱、所在地、責任者

内海區水産研究所 広島市宇品町県有埋立地(電)22637 花岡 資
 // 笠岡支所 岡山県小田郡神島内村大字横島(電)笠岡183 安田 治三郎
 // 洲本支所 洲本市炬ノ口(電)洲本616
 // 尾道臨時試験地 尾道市吉和町(電)尾道1607 井上 明

2. 沿革

昭和24年6月1日水産試験場が廃止せられて広島市に内海區水産研究所の設置が決まり現在の庁舎は広島県が昭和25年3月新築し国へ寄附したものである。研究業務はその後遂次開設せられたが人員設備とともにその整備を見たのは昭和26年4月よりである。一方昭和25年度において広島県佐伯郡大野町へ大野分室が設置され、調査船内海丸も新造整備されて瀬所内海の生産力の研究調査を実施している。

3. 組織機構及び人容

- 庶務課(5名 含課長1名)
 - 庶務係(2名)
 - 会計係(3名)
- 資源部(5名 含部長1名)
 - 統計科(2名)
 - 漁業資源科(3名)
- 生産力部(7名)
 - 海況第一科(3名)
 - 増殖第一科(3名)
- 利用部(5名 含部長1名)
 - 理化学科(3名)
 - 加工科(2名)
- 調査船
 - 内海丸(8名)
- 支所
 - 笠岡支所(5名)
 - 洲本支所(2名)
- 試験地 尾道(5名)
- 合計(43名)

本 所

総 数 31名

内 訳 事務官 3 名 技官 17 名 雇 7 名 非常勤職員 4 名 (船員)

区 分	氏 名	職 名	備 考	区 分	氏 名	職 名	備 考
所 長	花岡 資	技 官		(生産力部)			
(庶務課)				部 長	日下部台次郎	技 官	等岡支所長兼任
課 長	佐藤 当栄	事務官		増殖第一科長	古川 厚	〃	
庶務主任	浅野 象治	〃		海況第一科長	村上 彰男	〃	
会計主任	福岡 伯二	〃		(利用部)			
(資源部)				部 長	新田 忠雄	技 官	
部長心得	福田 嘉男	技 官		理化学科長	荒川 清	〃	
統計科長	〃	〃	兼 任	加工科長	杉本 仁弥	〃	
漁業資源第一科長	林 知夫	〃		船 長	田村 徳	雇	内海丸

4. 施設及び設備

(1) 敷地、建物

名 称	坪 数	棟 数	種 類	工 事 内 容	工 事 年 度	備 考
敷 地	556		宅 地			県より無償貸与
庁 舎	建 159.5 延 200	1 棟	木造一部二階建瓦葺モルタル塗装	工事費311万円 研究室6室 会議室その他	昭和24年新築	県より寄附
倉 庫	10	1 〃	木造平家建	コンクリート床	25年	
薬 品 庫	1.8	1 〃	コンクリート造	練瓦積モルタル	〃	
敷 地	585		宅 地	購入	〃	(大野分室敷地)
大野分室	51	1 〃	木造平家建モルタル塗装	水槽設備研究室2室 暗室ポンプ設備	〃 新築	
敷 地	861					有償借地(宿舍用)
公務員宿舍	建 18 延 37.5	1 〃	〃		24年	所長用
〃	〃 39	3 〃	〃		25年	一戸12.5坪 3棟
〃	〃 39	3 〃	〃		26年	一戸 13坪 3棟
寮	建 42.4 延 82.9	1 〃	木造二階建モルタル塗装		25年	二階独身寮6室階下三戸(一戸9坪)

(2) 配置略図 別紙のとおり

(3) 試験調査船

名 称	内 海 丸	安 芸 和 泉 丸	デルター一号	デルタ二号	第三号艇	
船 質 屯 数	木 31.56屯	木 5.02屯	木 4.55屯	木 0.97屯	木 0.44屯	木 0.88屯
長 × 巾 × 深	18.05 × 4.01 × 1.81	9.25 × 2.15 × 1.30	10.20 × 2.30 × 1.00	6.20 × 1.47 × 0.55	4.0 × 1.22 × 0.53	6.5 × 1.40 × 0.50
主機種類及馬力	ディーゼル 100HP	ディーゼル 60HP	焼玉 17HP	電着 4HP	電着 2HP	ナ シ
補機	〃	焼玉 5HP	ナ	シナ	シナ	シナ

建造年月日	昭26.3.25	昭25.11.25	昭23.12.25	昭25.6.1	昭25.10.25	昭23.4.30
速度	8哩	8哩	6哩	4哩	3哩	
航続距離	220哩	20哩	20哩	20哩	10哩	
無線設備	ナ	シオ	シナ	シナ	シナ	シ
漁撈設備	ナ	シナ	シナ	シナ	シナ	シ
主要根拠地	広島市	広島市	広島市	広島市	広島市	広島市

(4) 試験池、養魚 及びその附帯設備

名称	種類	個数	坪数	備考
透視水槽	コンクリート造り高さ1.8m	1個	10坪	大野分室

(5) 研究設備及び備品内容

名称	数量	備考
電動機	9	利用部 4 生産力部 1 大野分室 4
電気冷蔵庫	1	〃
〃 計算器	1	資源部
投影機	1	〃
渦巻ポンプ	4	大野分室

5. 主要な研究事業名とその概要

(1) 紀伊水道資源調査

紀伊水道における底曳網漁業の主要対象水族について資源生物学的に研究する。

(2) 内海資源調査

小型底曳及類似漁業の主要対象水族について資源生物学的研究を行う。

(3) 水質汚濁調査

化学工場の廃液が魚介類に及ぼす影響について研究する。

(4) 魚肉の変性に関する研究

魚肉蛋白の変性条件とその吸湿度との関係を研究する。乾製品の製造条件とその保存を考慮する。

(5) 水産製品の油焼防止に関する研究

煮干鰯の油焼防止を目的とし油焼けの反応の機構及着色物質の解明をせんとする。

(6) 水産物の保存に関する研究

罐詰瓶詰佃煮等水産製品の保存方法についての研究。

(7) 浅海生産力調査

主として浅網の生産性を調査する。

(8) 水面生産力調査

内海の海況調査を行い魚介類の生存環境の調査をする。

(9) 藻場調査

内海アジモ藻場に出現する稚魚の種類並に大きさ及環境を調査する。

笠岡支所

総 数 6名

内 訳 技官 3名 助手 1名 雇 2名

区 分	氏 名	官 名	備 考
支 所 長	安田 治三郎	技 官	
増殖第二科長	安田 治三郎	〃	兼務

4. 施設及び設備

(1) 敷地、建物

名 称	坪 数	棟 数	種 類	工 事 内 容	工 事 年 度	備 考
敷 地	3253					岡山県より無償借地
庁 舎	51	2	木造平家建洋瓦葺			岡山県より寄附
敷 地	201					借地(官舎用)
宿 舎	64	4	〃			24坪 1棟 10坪 2棟 10坪 1棟
倉 庫 其 他	32	2				

(2) 配置略図 別紙のとおり

(3) 試験調査船

名 称	わ か ば 丸	櫻 丸
船 質 吨 数	木 2.6吨	木 1.3吨
長 × 巾 × 深	8.66 × 2.06 × 0.77	7.85 × 1.68 × 0.51
主 機 種 類 及 馬 力	電 着 5.8HP	ナ シ
補 機	ナ シ	ナ シ
速 度	4 哩	
航 続 距 離	40哩	
漁 撈 設 備	ナ シ	ナ シ
主 要 根 拠 地	岡山県小田郡神島 内村 瀬戸港	同 左

(4) 試験池、養魚池及びその附帯設備

名 称	種 類	個 数	坪 数	備 考
養 魚 池	コンクリート造	4	延 4	1坪池
〃	〃	8	〃 160	20坪池
〃	〃	4	〃 160	40坪池
〃	〃	2	〃 1000	500坪池
〃	〃	1	700	

(5) 研究設備及び備品内容

名 称	数 量	備 考
電 気 適 温 器	1 台	
暗 室	1 室	写真設備一式
標 本 室	1 室	瀬戸内海産重要魚類の標本 藻貝養殖に関する標本
給 水 装 置	1 式	淡水鹹水

5. 主要な研究事業名とその概要

(1) アキアミの生態に関する研究

岡山県に主産するアキアミの漁場漁期産卵期及幼生稚蝦の棲息場所成蝦の移動、その他他海区産のものとの比較並に繁殖保護対策。

(2) 藻貝稚貝の成長に関する研究

藻貝稚貝の成長要因を明かにした。

(3) 内湾における蝦類の発生に関する研究

内湾の蝦の種類及その生態を明かにし特に稚蝦発生の状態を明かにして繁殖保護の対策を講ずる。

(4) 藻場調査

モバに棲息する稚魚の生応を明かにして魚類増産の対策の資料とする。

洲本支所

総 数 2 名

内 訳 技 官 1 名 雇 1 名

区 分	氏 名	官 名	備 考
	山口 義昭	技 官	
	吉本 勲	雇	

4. 施設及び設備

(1) 敷地、建物

名 称	坪 数	棟 数	種 類	工 内 事 容	工 事 年 度	備 考
敷 地	1,137					庁舎及宿舍敷地兵庫 県より寄附
庁 舎	建 72.9 延 114.5	1 棟	木造二階建			兵庫県より寄附
宿 舎	延 81.37	1 //	木造平家建			〃
工 場	18.15	1 //	〃			〃

(2) 配置略図 別紙のとおり

(3) 試験調査船

名 称	第 一 号 艇	第 二 号 艇
船 質 屯 数	木 3.6屯	木 1.27屯
長 × 巾 × 深	10.3×1.97×0.76	7.6×1.45×0.6
主機種類及馬力	焼玉 10HP	ナ シ
補機 〃	ナ シ	ナ シ
建 造 年 月	23.6.17 兵庫県よ り寄附	同 左
速 度	3 哩	
航 続 距 離	30哩	
漁 撈 設 備	ナ シ	ナ シ
主 要 根 拠 地	洲 本 市	洲 本 市

(4) 試験池養魚池及びその附帯設備

なし

(5) 研究設備及び備品内容

特記すべきものなし

5. 主要な研究事業名とその概要

(1) 魚群生態の研究

衝撃音及び集魚灯による魚群の行動を研究

尾道試験地

総 数 5 名

内 訳 技官 3 名 雇 2 名

区 分	氏 名	官 名	備 考
主 任	井上 明	技 官	海況第二科長

4. 施設及び設備

(1) 敷地、建物

名 称	坪 数	棟 数	種 類	工 内 事 容	工 事 年 度	備 考
敷 地	492					尾道市より無償借地
庁 舎	48	1 棟	木造平家建			〃 無償借用
宿 舎	18	1 〃	〃			〃 〃

(2) 配置略図 別紙のとおり

(3) 試験調査船

なし

(4) 試験池、養魚池及びその附帯施設

なし

(5) 研究設備及び備品内容

名 称	数 量	備 考
技 影 機	1	

5. 主要な研究事業名とその概要

○ (1) イカナゴの生態に関する調査

内海におけるイカナゴ漁業は漁獲高の面から又生活の依存度からして重要漁業である。本研究はイカナゴの産卵期、産卵数、成活度、肥満度等の生態学的研究と同時に豊況を支配する要因の研究を行ったもので産卵期における水温が大きな要因となつていることを見出した。

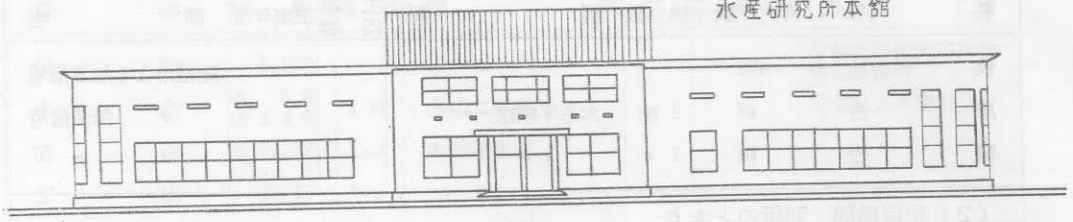
○ (2) 蝦曳網漁獲物調査

底曳網漁業は資源の面から再調査を行わなければならない現状で我々は予備的調査として蝦曳網漁業の漁獲物組成及び主としてエビ類（アカ、トウ、サル、エビジャコ、マイマイ、ソコシラエビ）の生態研究を行った。

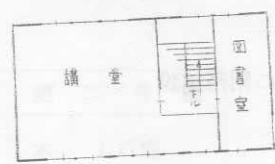
○ (3) 餌虫の生態に関する研究

浅海増殖の対象として餌虫の生態学的研究を行うもので産卵期、産卵数について研究を行うと共に成長度、人工孵化の研研を実施している。

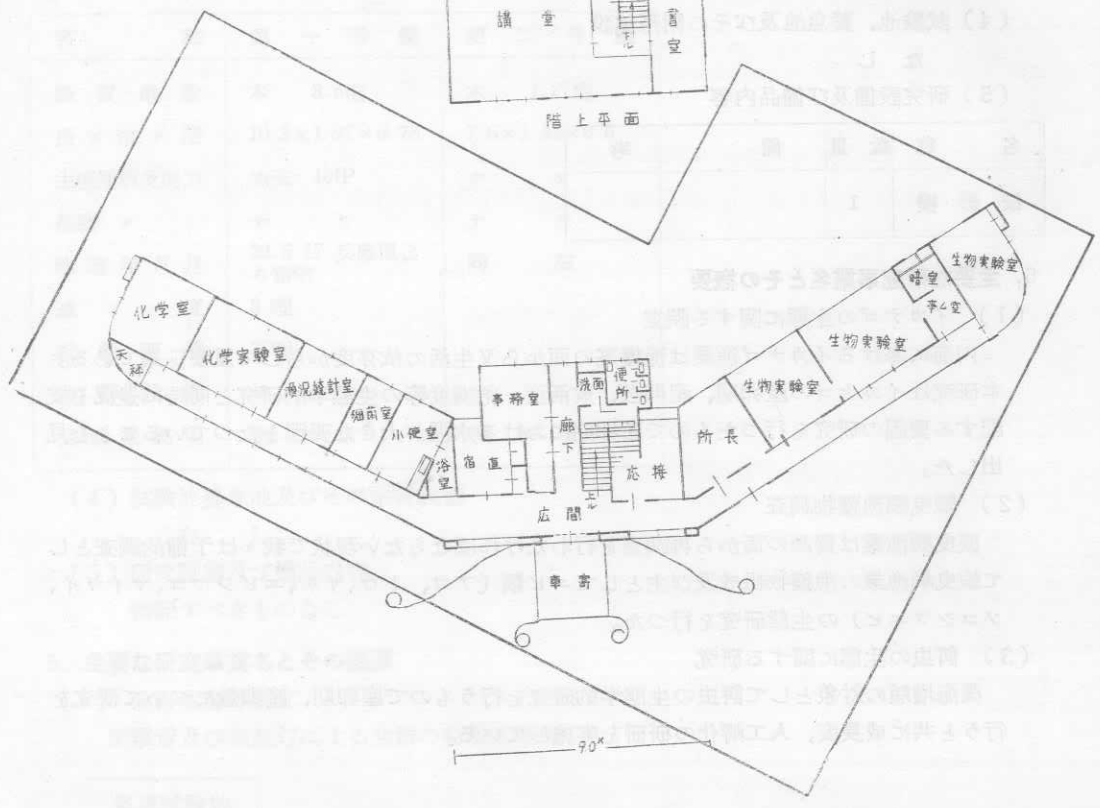
内海区
水産研究所本館



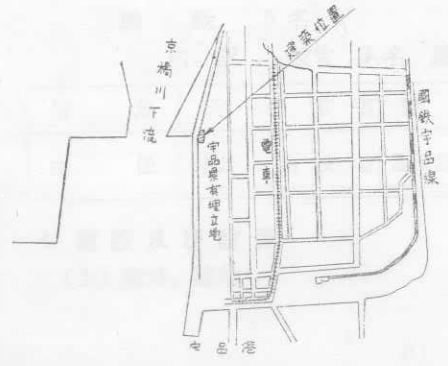
正面立面



階上平面



鳥瞰図

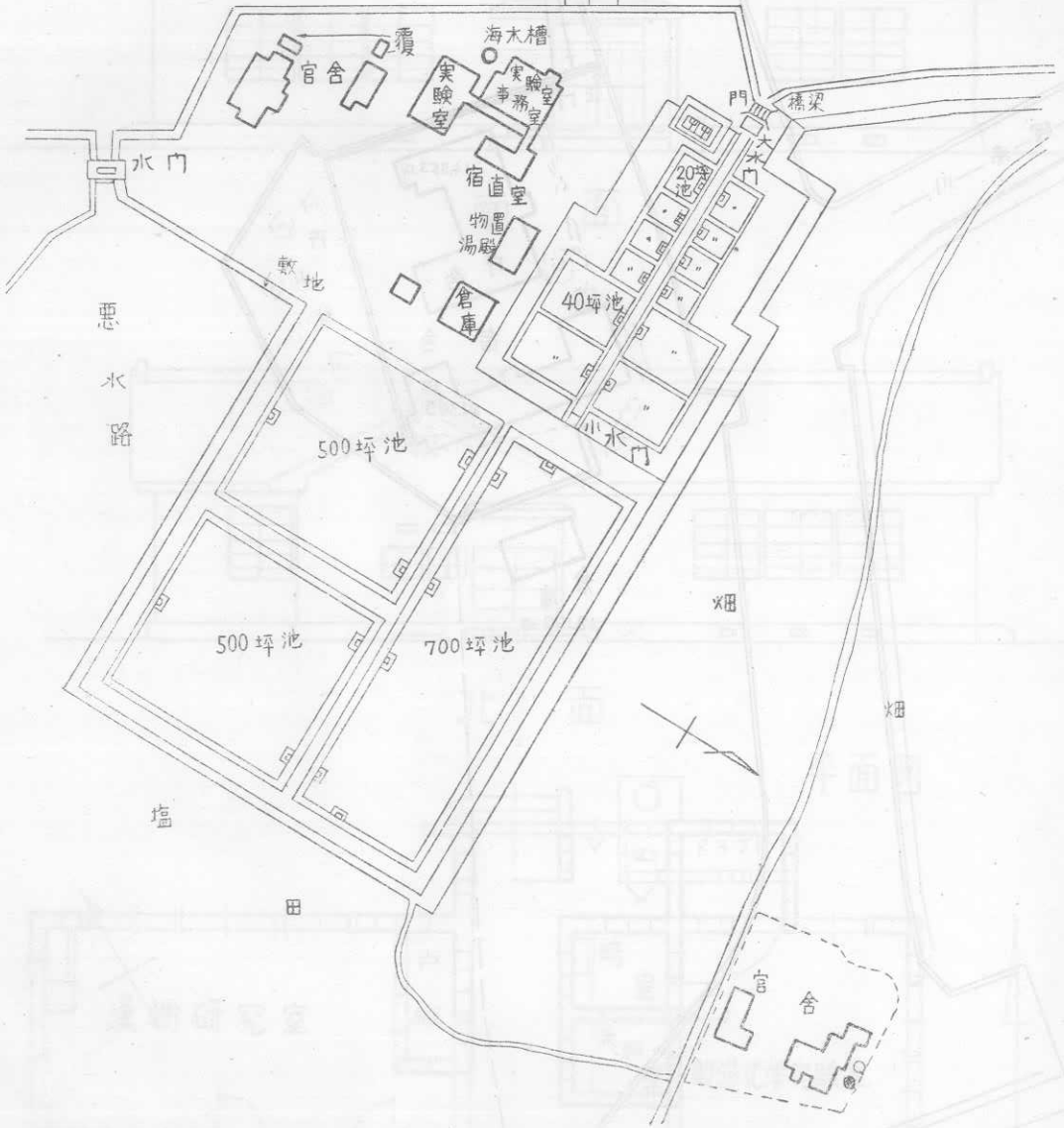


内海区水産研究所

笠岡支所

瀬戸内海

船着場



悪水路

敷地

500坪池

500坪池

700坪池

塩田

田

畑

畑

門

橋梁

海大槽

覆

官舎

実験室

実験室

宿直室

宿直室

物置

湯殿

倉庫

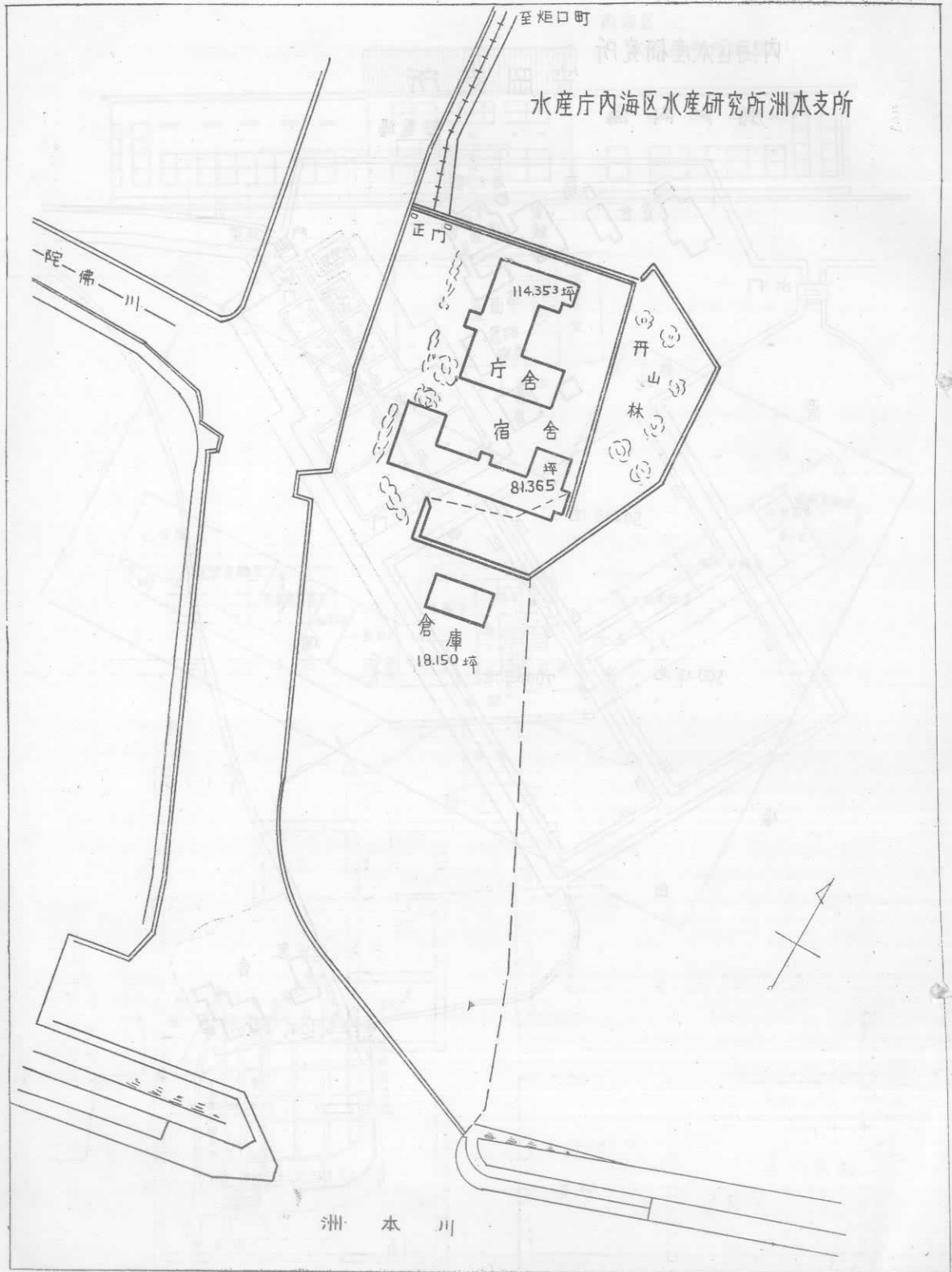
小水門

大水門

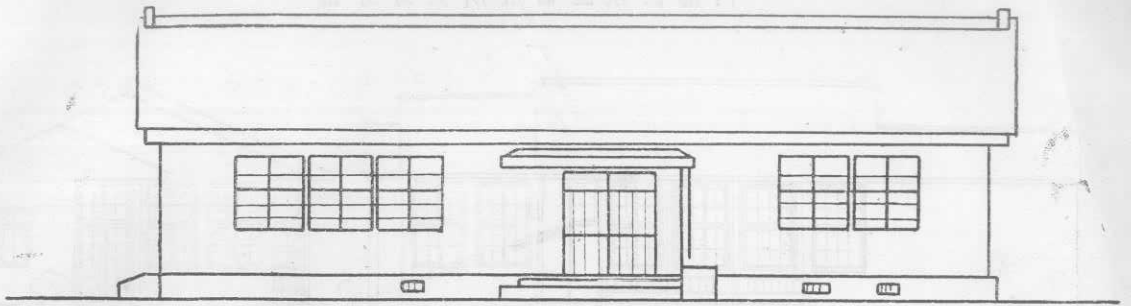
船着場

官舎

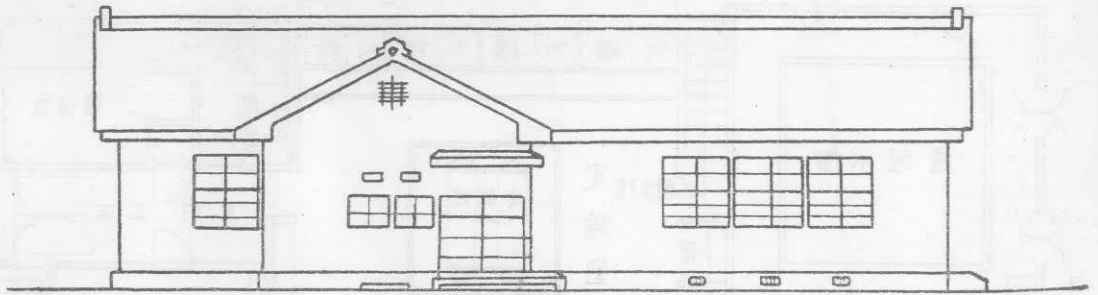
官舎



内海区水産研究所尾道試験地 (姿図)

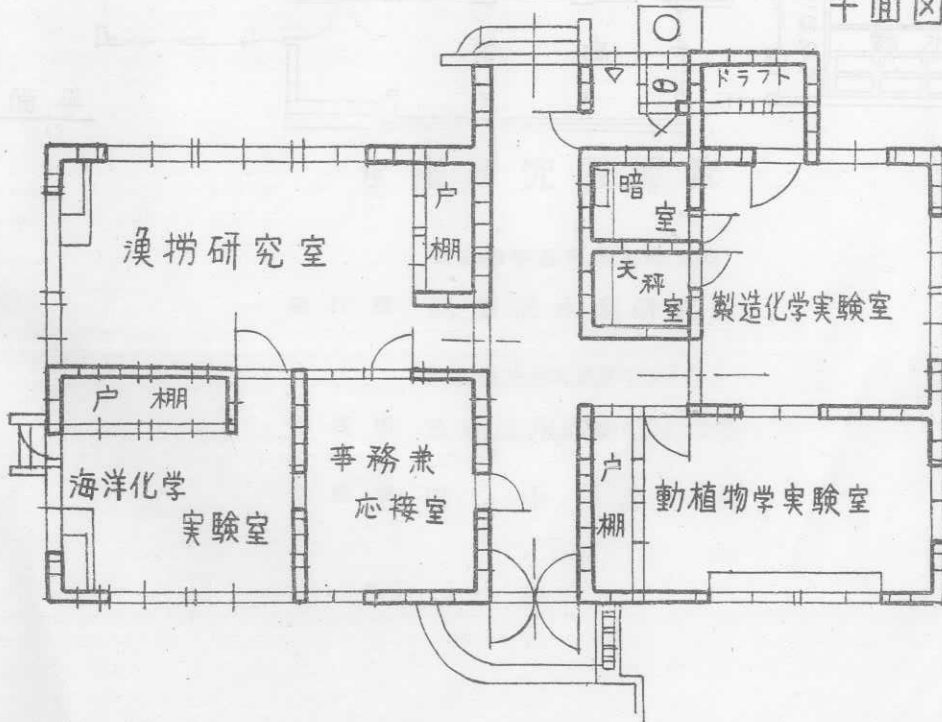


南 面



北 面

平面図



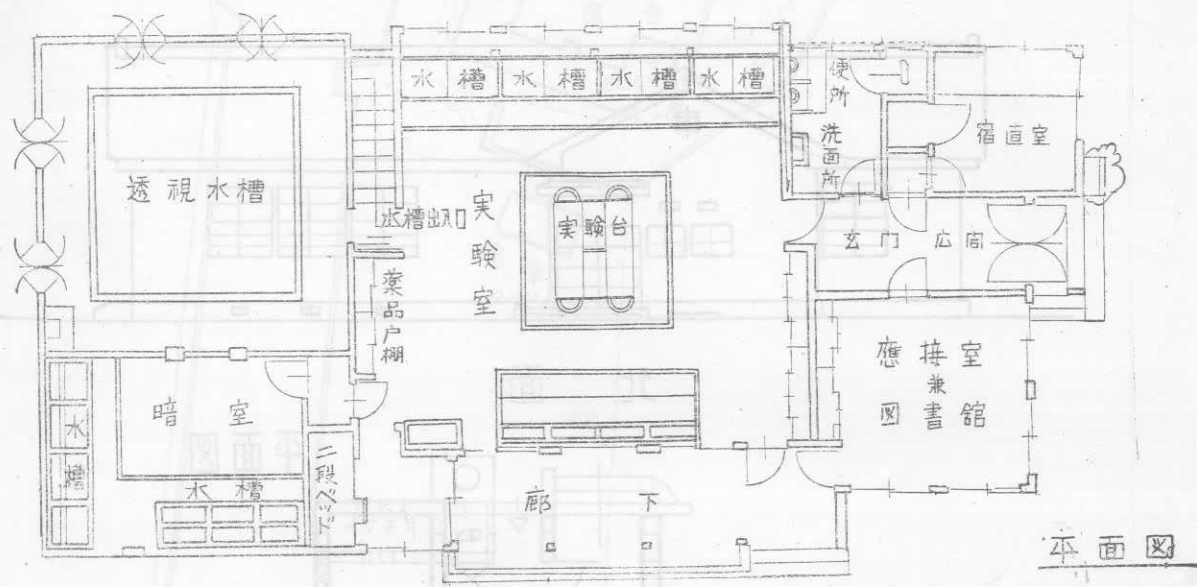
(圖參) 北野大野研究所水產區內

內海区水產研究所大野分室



(東) 立面圖

(北) 立面圖



平面圖

水産研究所要覽

広島市宇品町県有埋立地

発行所 内海区水産研究所

東京都中央区新富町三ノ六

印刷所 日本応用印刷株式会社

印刷者 田 中 忠 雄